

当別町

齊藤 康一郎

1. 概要

1.1 概要

当別町は札幌市と境界を接し、人口は約 18,000 人ほどの町である。札幌都心部から約 15～25 km に位置している。1871 年、仙台藩岩出山の領主・伊達邦直公が家臣共々移住し、苦難の開拓の歴史が始まった。人々の開拓の努力は、1902 年頃には札幌支庁管内(当時)で最も豊かな農村へと発展し、農業を基幹産業とした本町の礎が築かれた。現在では、管内有数の米の生産量を誇っている。また、切り花の生産が盛んで、道内屈指の生産額となっている。近年は、札幌市や江別市という産業集積地の隣地であり、石狩湾新港と新千歳空港とを結ぶ交通の要衝であること、1988 年の札幌大橋開通や JR 学園都市線の増便などから宅地造成がなされ、札幌近郊の田園都市として発展している。また、風景が酷似していると言われるスウェーデン王国・レクサンド市との姉妹都市提携をメインとした積極的な国際交流の町として、大きな飛躍が期待されている。

また、トウベツはアイヌ語で沼から来る川を意味し、その川とは当別川を指している。

図 1 町章



出所：当別町 HP

図 2 当別町の位置



出所：Wikipedia

1.2 町花、町木、町鳥

当別町の町花は「かすみ草」であり、町木は「白樺」町鳥は「ふくろう」である。ふくろうはさまざまなところで当別町のキャラクターとして使われているところをみることができる。

1.3 当別町と伊達氏の歴史

当別町を開拓したのは伊達の分家・岩出山伊達家の当主である。この岩出山伊達家は、伊達政宗直系の子孫なのである。この家系の始まりは政宗

画像 1 当別町案内図



筆者撮影

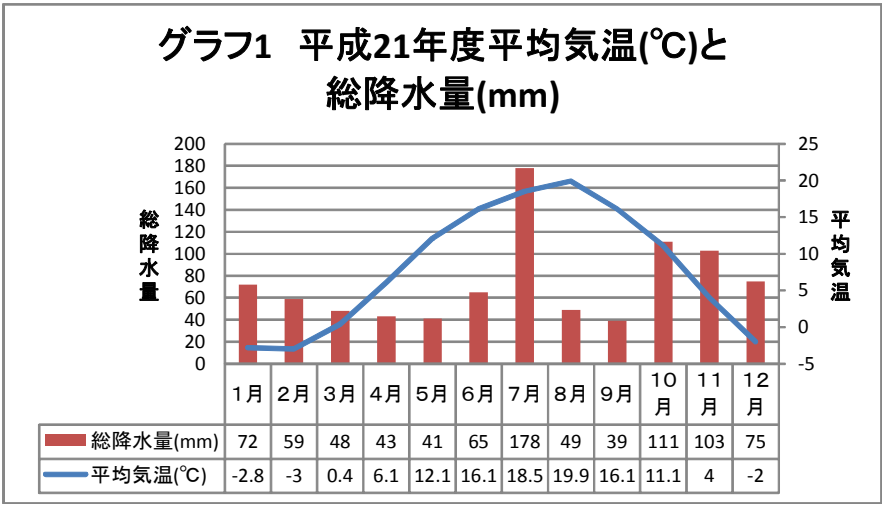
の四男・宗泰（むねやす）で、仙台の前に政宗が居城としていた岩出山城を居城とし、14000石を領していた。実際に当別町の開拓を中心になって行った伊達邦直は岩出山伊達家10代当主である戊辰戦争で幕府側についた仙台藩は28万石に減封され、邦直も14000石から130俵に禄高を減らされてしまった。邦直の所領は仙台藩の領内に残っていたとはいえ、たった130俵という知行では家臣団を養っていくことは出来なかった。

邦直が北海道への移住を考え始めたのは1869年のことだといわれている。9月には家臣に北海道移住計画を発表し、これを受けて家臣の吾妻謙は政府に開拓志願書を提出している。だが、この行動は仙台の本家に知られてしまい、吾妻は謹慎処分を食らった。だが志願書を提出した甲斐あって10月には石狩国札幌郡、空知郡の支配が政府より認可された。そこで邦直は小野寺省八郎、氏家周六、遊佐次郎らを支配地受領のため北海道へ派遣。ところが彼らの出発後、岩出山では北海道移住派と帰農派に分裂してしまい、邦直はこれらの和解に頭を悩ます事態になってしまう。おまけに小野寺、遊佐、氏家らは要領を得ぬまま帰郷してしまい、業を煮やした邦直自身が渡道する事になった。これが1870年のことで、邦直は弟・邦成らの開拓線に便乗して函館で下船し石狩を目指した。小樽で岩村通俊・開拓使判官から土地割渡状を交付され、空知郡ナイエ（現・奈井江町）を視察。だが、そこは道路すらない全くの原野で、おまけに石狩から40里もはなれた、僻地で、これでは開拓は無理、と判断し、一度小樽に戻った。邦直は小樽で道路開削、沿岸拝借の嘆願を幾度となく行っただが、出願が遅かったせいかとおることはなかった。それなら物資揚場を確保させて欲しいと嘆願を繰り返した結果、ようやく厚田郡聚富（現・厚田村聚富）を獲得。やっとのことで移住地を確保した邦直は、岩出山へ帰国し、第1次移住団を募集した。この時は160人が参加し、1871年3月に岩出山を出発し、翌4月に聚富に入植、岩出山伊達家の北海道開拓が始まった。ところが、聚富は日本海沿岸の砂地で、海からの強風でせっかく植えた作物の苗が吹き飛んでしまうという状態であり、これでは農耕など出来ないと途方にくれる状態に追い込まれてしまう。この時、邦直は家臣・小野寺省八郎の兄で開拓使官吏の小野寺周記から「当別の地が農耕開拓に有望だ」という情報を得、開拓使に当別拝借願を提出。これは受理され、邦直主従は聚富から当別に移転している。

この年の9月、邦直は第2回移民団を募集するため岩出山に戻っている。ところが、邦直が北海道へ移住してからというもの岩出山では帰農商派が勢力を増していて、結局182人が応じたに過ぎなかった。しかも、帰農商派は邦直の家族までも移住するのはあり得ないと考え、邦直に対し、妻子は置いて当別へ向かうよう迫る始末であった。邦直もこれには妥協せざるを得なかった。たしかに、在郷の家臣にとって領主一族がいなくなるのは痛恨事である。そこで、邦直の家族のうち三男・篤三郎と姉2人が残ることになり、邦直を悩ませた帰農・移住紛争はこれで終結した。この年の廃藩置県で邦直は移民取締役に任命され、引き続き開拓の陣頭指揮を執ることになっているが、翌1872年の平民籍編入は当別開拓団を衝撃させた。だが、ここまで来ては後戻りすることは出来ず、必死の思いで開拓を続け、1879年には戸長役場が設置されるまでになった。この時、戸長には吾妻謙が就任

している。当別の発展ぶりは岩出山にも伝わり、無謀だと思っていた帰農商派にも動揺が走るようになった。この年、第3回移民団の募集が行われ、210人が岩出山から当別に移住した。1885年には当別移民団も士族復籍願を提出し、これが認められると有珠郡と同じく士族契約会が結成された。盟主はやはり邦直である。だが邦直は1891年、それまでの苦勞がたたったのか病死し、後を継ぐはずだった息子の基理も同年死去。孫の正人が後を継ぎ、岩出山伊達家(当別伊達家)は現在も脈々と続いている。その後、1902年に当別町が成立し、1947年7月1日に当別町として成立し、現在へと至る。

1.4 当別町の気候



出典：当別町 HP より筆者作成

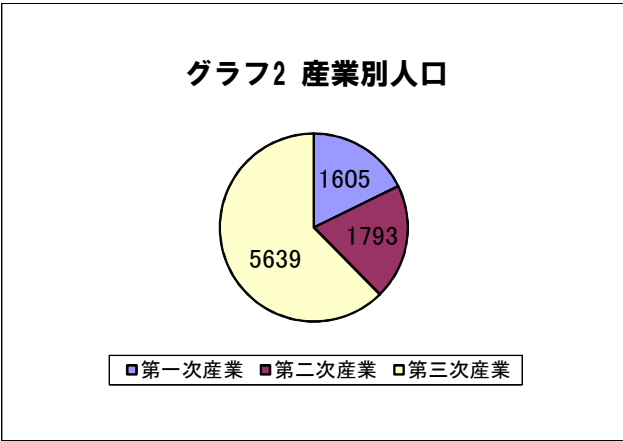
上記のグラフより、8月でも20度をこえない涼しげな土地であることがわかる。冬も氷点下に突入する月はあるものの、極端に冷え込むことが少ない土地であることがうかがえる。

7月が圧倒的に高い数値になっており、この年の7月は集中豪雨などが多かったのではないかと推測できる。また、冬の降水量はそこまで多くはなく、雪の量が少ない土地であることがわかる。

2. 当別町の産業

2.1 産業別人口

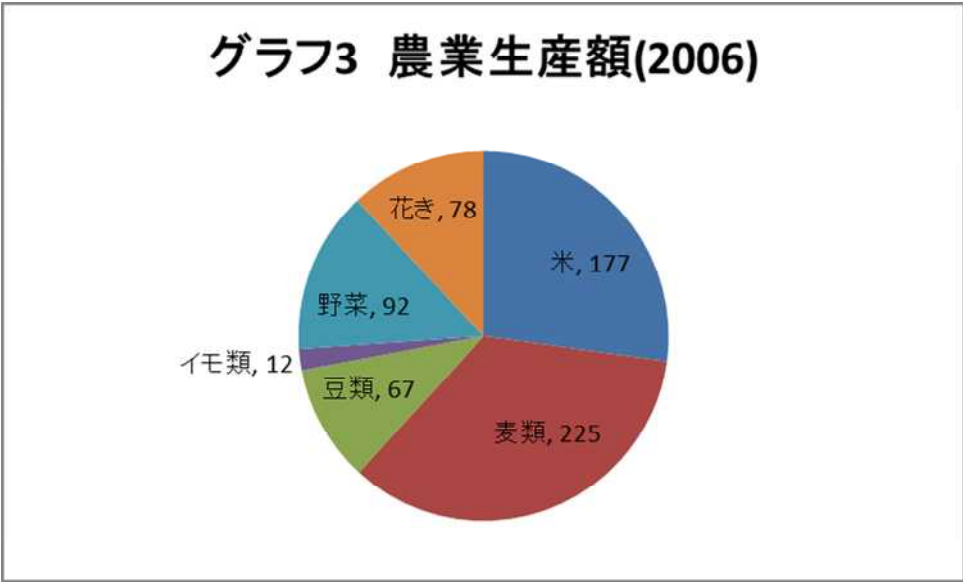
右の図より、第一次産業に従事する人は1605人、第二次産業に従事する人1793人、第三次産業に従事する人は5639人と、圧倒



出所：総務省統計局「国勢調査」より筆者作成

的に第三次産業に従事する人が多いことがうかがえる。詳しくは後に記述するが、道民の森や、スウェーデンヒルズなどといった観光スポットが多いことが第三次産業の従事者が多い理由であろう。

2.2 農業



出所：農林水産省 HP より筆者作成(単位：千万円)

当別町は農業が盛んな土地であり、農業生産額だけでも 656 千万円あり、畜産は 33 千万円であることから圧倒的に農業が広くおこなわれていることがわかる。数多くの農産物の農産物を出荷しており、麦類にいたっては全体のおよそ 3 分の 1 を占めている。そのように多く出荷できているのは右の表にあるように、

表1 主な農産物の作付面積・収穫量		
	作付面積(ha)	収穫量(t)
米	1750	9340
小麦	3190	9050
大豆	534	1300
小豆	367	834

出所：農林水産省 HP より筆者作成

に、多くの作付を行っていることが要因にあげられるだろう。米の生産額も石狩管内では一番高い。水田の割合も全国は 54.2%であるのにたいし、当別町は 69.2%と非常に高い数値である。

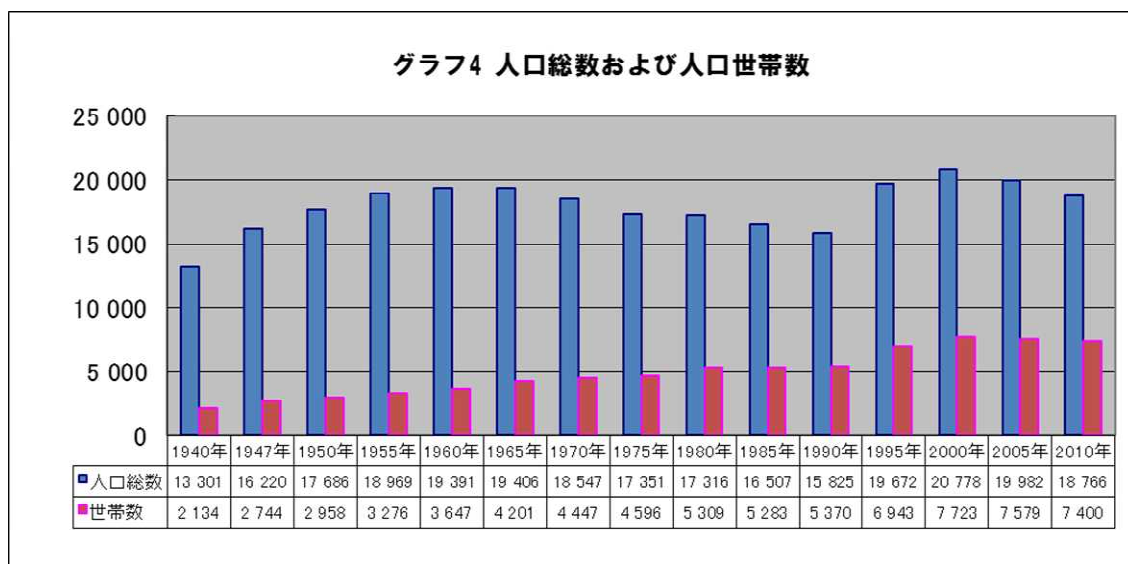
表2 主な花の作付面積・収穫量		
	作付面積(a)	収穫量(千本)
ユリ	3050	2250
カーネーション	410	1310
トルコギキョウ	280	330

出所：農林水産省 HP より筆者作成

また、花きの栽培も盛んであり市場でも高い評価を受けている。当別町の町花であるかすみ草も重要な品目の一つである右の表のとおりユリも多く出荷している品目の一つである。

3. 当別町の人口

3.1 人口



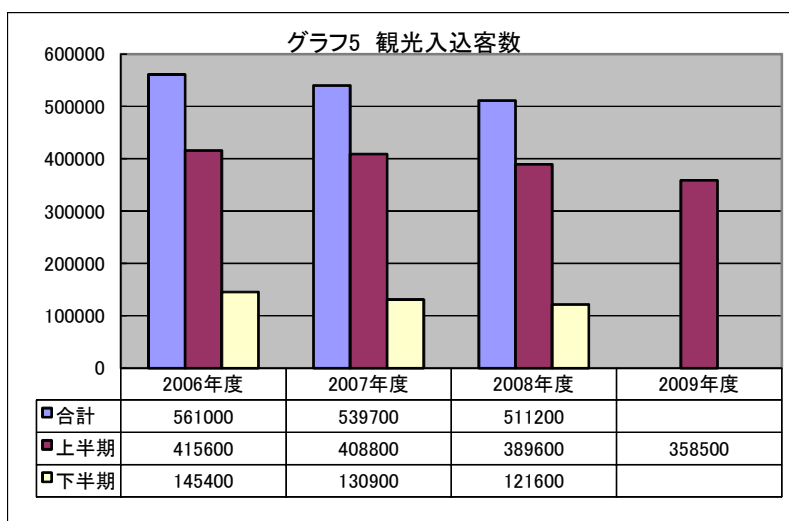
出所：総務省統計局「国勢調査」より筆者作成

当別町の人口は 2000 年の 20778 人がピークであり、全体的にみると、増加と減少を繰り返している。世帯数は増加傾向であることから、人口そのものは増減が激しいが、引越してくる世帯はおおいことがうかがえる。また、1960 年にかけてと、2000 年にかけての 2 つの山がみられる。どちらも学園都市線(札沼線)が関係しているのではないかと考えられる。一つ目の山は、戦争時に運転を休止していた札沼線が再開したことで当別に行く人が増えたから、二つ目の山は複線化が進行し、学園都市線の利用がしやすくなってきたことによるものだと推測される。

4. 観光

4.1 観光入込客数

2009 年度だけは上半期のデータしかなかったが、2006 年度から 2009 年度にかけて徐々にではあるが減少していることがうかがえる。月別では、6 月から 8 月にかけて



出典：北海道庁 HP より筆者作成(単位：千人)

の夏の頃の観光客が多くなっていた。道民の森にはキャンプ場があり、夏のこの時期になると利用者が多くなっている理由であろう。下半



出典：北海道庁 HP より筆者作成(単位：千人)

期に観光客があまり来ないのは、ルスツなどといったスキーなどのレジャーを楽しむに行く人が多いため観光客が減るのであろうと推測される。しかし、月別でみた場合、圧倒的に道外からの利用者が少ないという特徴がある。これは、あまり当別町がメジャーな場所ではなく、道民の森といった施設もあまり道外には知られていないということが推測できる。

4.2 観光施設

画像 2 ふれあい倉庫

4.2.1 ふれあい倉庫

石狩当別駅を降りてすぐ右にある赤レンガの建物である。

もともとの名前は「れんが倉庫」であったが、「文化創造・にぎわい創出・情報発信」をコンセプトとし、ふれあい倉庫として生まれ変わった。カルチャーホールなどがあり、使用料金を払うことで誰でも使うことができる。



4.2.2 道民の森

「道民の森」は、道民が森林と触れ合える場として北海道が整備した森林総合利用施設である。「森に集う・森に学ぶ・森に遊ぶ」をテーマに神居尻・青山中央・一番川・牧場南・青山ダム・月形の6地区でレクリエーション、スポーツ、文化活動、森づくりなど、森林とのふれあいを楽しむことができる。

画像 3 道民の森



出所：道民の森 HP

1 年を通して様々な行事が行われているのが特徴であり、地区によってはキャンプも楽しむことができる。

4.2.3 スウェーデンヒルズ

スウェーデンヒルズには誰もが理想とする住環境が整っている。豊かな自然はもちろんのこと、札幌の中心から車でわずか 35 分の場所にあるからこそ享受できる都市生活の利便性も兼ね備えている。そのためスウェーデンヒルズには、子育て世代からシニア世代にいたるまで、幅広い年齢層の方々が住まい、コミュニティを形成している。

コミュニティでは、住民一人一人が力を合わせて、理想の住環境を守り実現していく「建築協定」がある。たとえば、宅地の境界から一定距離をおいて家を建築する事、屋根及び外壁は一定の基本色から選択する事、門塀はつくることができない事等がある。これらの協定を継続的に実現するために運営委員会も設けている。

4.2.4 当別ダム

当別ダム（とうべつダム）は、北海道石狩郡当別町、一級河川・石狩川水系当別川に建設中のダムである。

北海道札幌土木現業所が施工を進めている道営ダム。国庫の補助を受けて建設される補助多目的ダムで、完成すれば北海道が管理する多目的ダムとしては屈指の規模の人造湖が誕生する。当別川・石狩川の治水目的及び札幌市・小樽市・石狩市・当別町の水道水源として建設されている。だが、公共事業の在り方を巡って現在も論争が繰り広げられているダムの一つでもある。型式は日本で開発された台形 CSG ダムを採用、堤高は 52.7 メートルである。2012 年の完成を目標としている。

画像 4 スウェーデンヒルズ(看板)



著者撮影

画像 5 スウェーデンヒルズ(家)



著者撮影

画像 6 当別ダム



出典：Wikipedia

4.3 特産品

4.3.1 花

農業のところでも述べたが、生活に潤いと安らぎをもたらしてくれる花の人気は年々高まっている。当別ではかすみ草やカーネーション、スターチス、チューリップなどを生産する花き栽培農家が増え、独自の「共選共販システム」が高く評価されるようになって、銘柄販売のできる産地として急成長している。

4.3.2 いもだんご汁

当別産の野菜を使って昔なつかしい「いもだんご汁」を商工会女性部が再現した。新しい町の特産品として好評を得ている。

いもだんご・たれ・とりごぼう・にんじんなどが入って誰でも簡単に調理することができる。

画像 7 いもだんご汁



出典：当別町 HP

4.4 イベント

4.4.1 夏至祭

夏至祭はスウェーデンでは夏の伝統行事である。この頃は昼が一番長い白夜の季節で、夏至祭はスウェーデン語では「ミドソンマル」といい、「真夏」を意味する。

当別町とスウェーデン王国レクサンド市は1987年10月に姉妹都市提携を結び交流を続けている。その証の一つが夏至祭である。レクサンド市の「夏至祭」はスウェーデンダーラナ地方で最大のものと言われている。

「夏至祭」を再現した当別版の夏至祭では、数千人の来場者があり、本場同様、マイストングの立上げ、フォークダンスが楽しめるほか、スタンプラリーやグリーンコンサート、ピエロのパフォーマンスショーなどのほか、当別産の農産物や「北欧プレート」などのオリジナルメニューが堪能できる。

画像 8 夏至祭



出典：当別町観光協会 HP

(参照ホームページ)

道民の森 HP : http://www.do-sinrin.jp/dominno_mori/

当別町 HP : <http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/>

当別町観光協会 HP : <http://portal.town.tobetsu.hokkaido.jp/>

WikipediaHP : <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

スウェーデンヒルズ HP : <http://www.swedenhills.jp/>

北海道庁 HP : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

総務省統計局 HP : <http://www.stat.go.jp/>